

【愛媛県立今治工業高等学校】

生徒が目標とする技術レベルと課題を明確にする

- 「実習」における溶接作業において、各評価の観点について到達目標を示したルーブリック評価表（目指すべき状況と作品例が示されている）を活用
- 生徒は自身の作品と共に自己評価及びグループで相互評価することにより、技術的な課題について検証し、改善を図りながら技術を向上させる
- 目標を明確にすることで、評価の公平性や自己の到達度等を可視化するとともに、学習評価が教員の主観とならないようにする

【教師の実感】

- 生徒は、目的をもって作業に取り組むことができるようになり、教員や他の生徒に質問や相談することが多くなった
- 生徒相互で課題解決のために試行錯誤して作業する場面が多くなり、その情報を共有しながらより高い目標を目指そうとする連帯感と意識の醸成が見られるようになった

【生徒 A の自己評価と教員による評価】

	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		作品
	自己評価	B	自己評価	B	自己評価	B	
作業 1 回目	・スラッグの清掃が不十分の状態 で溶接をしたため、スラッグの巻き込みが起こった。		・途中で溶接がやりにくくなり、ビードがずれた。 ・ビードと母材の境界線に溝ができた。 ・溶接が上手な人の溶接を見ると、自分と比べ溶接スピードが遅かった。		・班員に自分の溶接作業を見せると、溶接棒が短くなってくると溶接棒の先端が母材から離れていると指摘された。		 ※生徒の作品
教員コメント	・初層のスラッグは特に剥離しにくいので、チッピングハンマーやワイヤーブラシ等の工具を使用して、スラッグを完全に取 り除いてから溶接すること。		・母材を溶接しやすい位置に設置していないため、溶接姿勢が悪くなっている。 ・運棒速度が速くアンダーカットになっている。 ・溶接作業の基本は、同じ動作を繰り返すこと。		・被覆アーク溶接では、溶接棒が溶けるスピードに合わせ溶接ホルダーを下げ、アーク長を一定に保つことが大切である。		作品 評価 B

※作業2回目以降も同様に自己評価及び相互評価を行い、自身の技術レベルの変容を認識する

ルーブリック評価表（溶接作業）

作品の評価及び例

目標	【知識・技術】	【思考・判断・表現】	【主体的に取り組む態度】	作品の評価及び例
	実習で学んだ知識や技能を生かし、安全に溶接作業を完了させることができる。溶接作業の工程や手順を正しく評価できる。溶接作業の結果を正しく評価できる。溶接作業の結果を正しく評価できる。溶接作業の結果を正しく評価できる。	溶接の工程や手順を正しく評価できる。溶接作業の結果を正しく評価できる。溶接作業の結果を正しく評価できる。溶接作業の結果を正しく評価できる。	実習について関心を持ち、周囲の作業を真面目に観察し、積極的に参加することができる。実習に協調性をもって、取り組むことができる。	
S（最も低い）	・実習に関する基礎的な知識や目的を理解し、作業に取り掛ることができる。 ・溶接作業の結果を正しく評価できる。 ・溶接作業の結果を正しく評価できる。 ・溶接作業の結果を正しく評価できる。	・溶接条件を理解し、溶接作業を正しく評価できる。 ・溶接作業の結果を正しく評価できる。 ・溶接作業の結果を正しく評価できる。	・実習項目について興味・関心を持ち、積極的に参加することができる。 ・自分の役割を積極的に果たすとともに、他班員と協力して実習に取り組んでいる。	
A（真ん中）	・実習に関する基礎的な知識や目的を理解し、作業に取り掛ることができる。 ・溶接作業の結果を正しく評価できる。 ・溶接作業の結果を正しく評価できる。 ・溶接作業の結果を正しく評価できる。	・溶接条件を理解し、溶接作業を正しく評価できる。 ・溶接作業の結果を正しく評価できる。 ・溶接作業の結果を正しく評価できる。	・実習項目について興味・関心を持ち、積極的に参加することができる。 ・自分の役割を積極的に果たすとともに、他班員と協力して実習に取り組んでいる。	
B（普通）	・実習に関する基礎的な知識や目的を理解し、作業に取り掛ることができる。 ・溶接作業の結果を正しく評価できる。 ・溶接作業の結果を正しく評価できる。 ・溶接作業の結果を正しく評価できる。	・溶接条件を理解し、溶接作業を正しく評価できる。 ・溶接作業の結果を正しく評価できる。 ・溶接作業の結果を正しく評価できる。	・実習項目について興味・関心を持ち、積極的に参加することができる。 ・自分の役割を積極的に果たすとともに、他班員と協力して実習に取り組んでいる。	
C（最も高い）	・実習に関する基礎的な知識や目的を理解し、作業に取り掛ることができる。 ・溶接作業の結果を正しく評価できる。 ・溶接作業の結果を正しく評価できる。 ・溶接作業の結果を正しく評価できる。	・溶接条件についてよく理解できている。 ・溶接作業の結果を正しく評価できる。 ・溶接作業の結果を正しく評価できる。	・実習項目に興味・関心をもつことができている。 ・自分の役割をほとんど果たすことができている。 ・自分の役割を積極的に果たすなど、主体的に取り組むことができる。	

目標
S
A
B
C

評価の観点ごとに目標と評価の基準S～Cを明示

生徒は作品の技術レベルを画像により確認できる